

## 生徒のウェルビーイング

2021・11・22 重枝 一郎

「学習支援」という言葉をよく耳にする。本校の先生方も朝早くから、放課後遅くまで生徒の質問等に答える姿をよく目にする。先生方は、その意義をよく理解しているから粘り強くかかわっていただけていると感謝している。

「学習支援」の意義・効果は、学力向上・成績向上ということにとどまらず、自己肯定感など、より多角的に、生徒のウェルビーイング(心身ともに健康で、より良い状態)を高めることが調査研究でわかっている。具体的な学習支援の作用として、確認されたことは、【誰かに気にかけてもらう感覚】【頼れる大人に会える】【自分が成長できる実感】【人間的なつながり】【もう一つの学びの場】【居場所感】という大きく6つの作用が確認された。もう少し細かく言うと・・・

### 【誰かに気にかけてもらう感覚】

気にしてくれる人の存在、励まみや勇気をくれる人の存在

### 【頼れる大人に会える】

相談相手、将来への助言、ロールモデルの獲得

### 【自分が成長できる実感】

勉強がわかる感覚、勉強姿勢の前向きな変化

### 【人間的なつながり】

話し相手、人間関係を深める、特別な時間

### 【もう一つの学びの場】

楽しく学べる、質問しやすい、自分に合わせてくれる

### 【居場所感】

自分を迎えてくれる場所、話しかけてくれる人、友だち関係

また、「学習支援」をした生徒のその後の変化としては、「成績が上がった」という人は当然出てくるが、「家で学習する習慣がついた」「大人に対する印象がよくなった」「将来の進学に対する見通しが持てた」という調査結果もあり、先生方が朝、放課後等に生徒の学習支援をすることは、とても大きな意義があると言える。

しかしながら、なかなか一人の生徒とばかり対応できないこともある。ただ、そんな日常でも学習支援をする機会があったら、それはその生徒に対して素晴らしいケアの取組なのである。しっかり時間をとることが難しい現実はあるが、気になる生徒に声をかけたりするだけでも、上の6つの作用につながる。

ささやかであっても、先生方の声や笑顔の積み重ねには、生徒の未来を変える可能性がある。もうすぐ期末考査である。今日も先生方が校舎のどこかで生徒のウェルビーイングを高めてくれている。